

各関係機関団体の長) 殿
各病虫害防除員

福岡県病虫害防除所長

平成24年度病虫害発生予察注意報第4号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第4号(イチゴ炭疽病)を発表したので、送付します。

注意報 第4号

イチゴ炭疽病の潜在感染状況を調査した結果、潜在感染株率は昨年同様、高い状況でした。ほ場でも既に本病が発生しているところもあり、今後も高温・降雨により感染拡大が懸念されますので、防除の徹底を指導願います。

イチゴ

1 病虫害名：炭疽病

2 発生地域：県下全域

3 発生時期：やや遅

4 発生量：多

5 注意報の根拠

(1) 7月2半旬に県下21か所の育苗床の苗から小葉を採取し、エタノール浸漬法による炭疽病の潜在感染株調査を行った結果、潜在感染株率・ほ場率ともに、本調査を開始して以来2番目に多く、前年並で、平年(過去6年平均)より多かった。

・潜在感染株率 **48.6%** (前年 40.3%、過去6年平均 27.6%)

・潜在感染株確認ほ場率 **95.2%** (前年 95.0%、過去6年平均 76.4%)

(2) 7月5半旬に巡回調査を行った結果、発生株率は前年・平年(過去8年平均)並で、発生ほ場率は前年よりやや少なく、平年(過去8年平均)並であった。

・発生株率 **0.05%** (前年 0.3%、過去8年平均 0.3%)

・発生ほ場率 **9.1%** (前年 19.0%、過去8年平均 10.1%)

(3) 向こう1か月の気象予報(7月27日付福岡管区気象台発表)では、気温は平年並か高い、降水量は少ない、日照時間は多いとされている。

6 防除上注意すべき事項

(1) ほ場をこまめに見回り、発病株及びその周辺株は速やかに除去・処分する。

(2) 降雨、台風の前夜や摘葉後に薬剤散布を徹底する。なお、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

(3) 急激な肥効は発病を助長するので肥培管理に注意する。

(4) 雨よけビニルや寒冷紗を被覆しているほ場では風通しを良くする。

(5) 低温処理時の注意事項

ア 夜冷短日や低温暗黒処理は、株へのストレスがかかり発病を助長するので、入庫前に生育状況を確認し、必ず健全苗を用いる。

- イ 入庫する際は過湿を防ぐため、苗を詰めすぎないように注意する。
- ウ 株冷入庫前、陽光処理時のかん水は、過度にならないように注意する。

表 エタノール浸漬法によるイチゴ炭疽病の潜在感染株率の調査結果 (単位: %)

調査地点		本年(H24年度)	H23年度	H22年度	過去6ヵ年平均
本所	糸島市	10	20	40	20.0
	福津市	0	0	15	8.0
	久留米市1	5	10	30	17.5
	久留米市2	25	5	25	10.0
	筑前町	65	40	30	19.2
	嘉麻市	—	—	—	0.0
	飯塚市	90	25	55	28.3
	福智町	75	10	85	20.0
筑後支所	八女市1(黒木)	40	35	50	23.3
	八女市2(蒲原)	65	—	15	9.0
	筑後市	85	20	85	36.0
	大川市	35	10	75	14.2
	みやま市高田町	95	90	100	43.3
	大木町	20	20	55	15.8
	広川町1	55	75	50	29.0
広川町2	25	100	25	25.0	
行橋支所	岡垣町1	25	35	75	49.2
	岡垣町2	40	40	85	48.3
	岡垣町3	—	—	—	15.0
	行橋市1	—	—	—	5.0
	行橋市2	35	35	27	23.7
	豊前市1	90	60	45	45.0
	豊前市2	60	75	85	48.0
	みやこ町	80	100	60	56.7
みやこ町2	—	—	—	25.0	
潜在感染株率		48.6	40.3	52.9	27.6
潜在感染株確認ほ場率		95.2	95.0	100.0	76.4

注1 調査地点は、イチゴ育苗期定点調査ほ場 21 か所 1 地点 20 株、1 株当たり 2～3 枚を採取
 注2 処理日：7月11日 判定日：7月27日 (28℃で2週間静置)

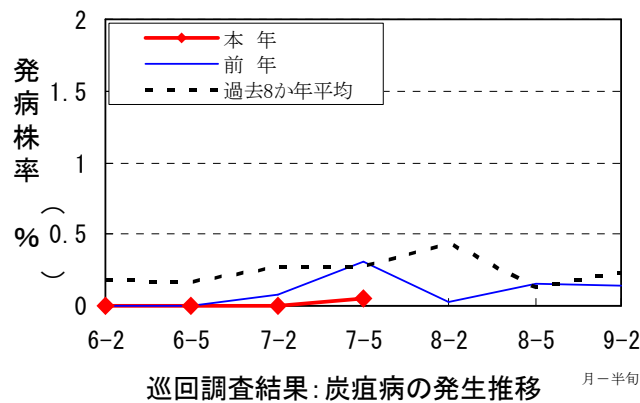


写真1 炭疽病による葉の汚斑

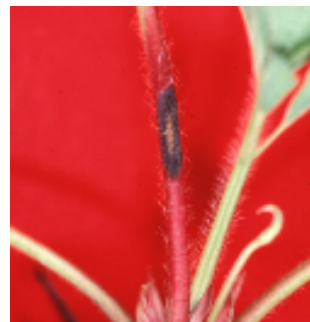


写真2 炭疽病による葉柄の褐変